

地域とともに育む 心豊かな にしきの子

岩国市立錦清流小学校PTA

1 学校地域の概要

PTA会長：牧 中 マリコ
 学 校 長：品 川 和 之
 児 童 数：69人
 会 員 数：家庭数48 教職員数11
 所 在 地：〒740-0724 山口県岩国市錦町広瀬 247
 TEL 0827-72-2301
 FAX 0827-72-2388
 E-mail nishiki_s@city.iwakuni.lg.jp



山口県岩国市の北部に位置する ^{にしきまち} 錦町 は、広島県、島根県との県境を接し、中央を錦川及び宇佐川が貫流している。面積 210.32 km²、林野率 92%と平地が非常に少ない。県下最高峰の寂地山や羅漢山等には登山の愛好家が多く訪れ、秋は紅葉狩りの木谷峡や寂地峡など美しい自然に恵まれている。

産業では、古くから農林業の他にワサビ・コンニャクの生産や、錦川・宇佐川のアユ漁が広く知られている。本校が所在する錦町広瀬は、古代人が居住したと思われる遺物等が発見されており、近世以降は山城地方の行政・商業の中心地として栄えた。

岩国市錦町は、昭和30年広瀬町と深須、高根の2村が合併し、人口1万2千人余の旧 ^{にしきちょう} 錦町として発足した。昭和38年には、岩日線（当時JR、現在錦川鉄道清流線）が開通し、交通が便利になったものの過疎化は急速に進み、平成18年3月、岩国市及び玖珂郡町村（大畠町、和木町を除く）の1市6町1村が合併し岩国市となった。現在の ^{にしきまち} 錦町の人口は2,848人、岩国市全体の人口は140,758人（平成28年5月現在）である。

高齢化率は高く、高齢者の多くは農業を営み、若者の多くは町内の公共機関・企業の他に、岩国地区・周南方面へ通勤されている方もいる。

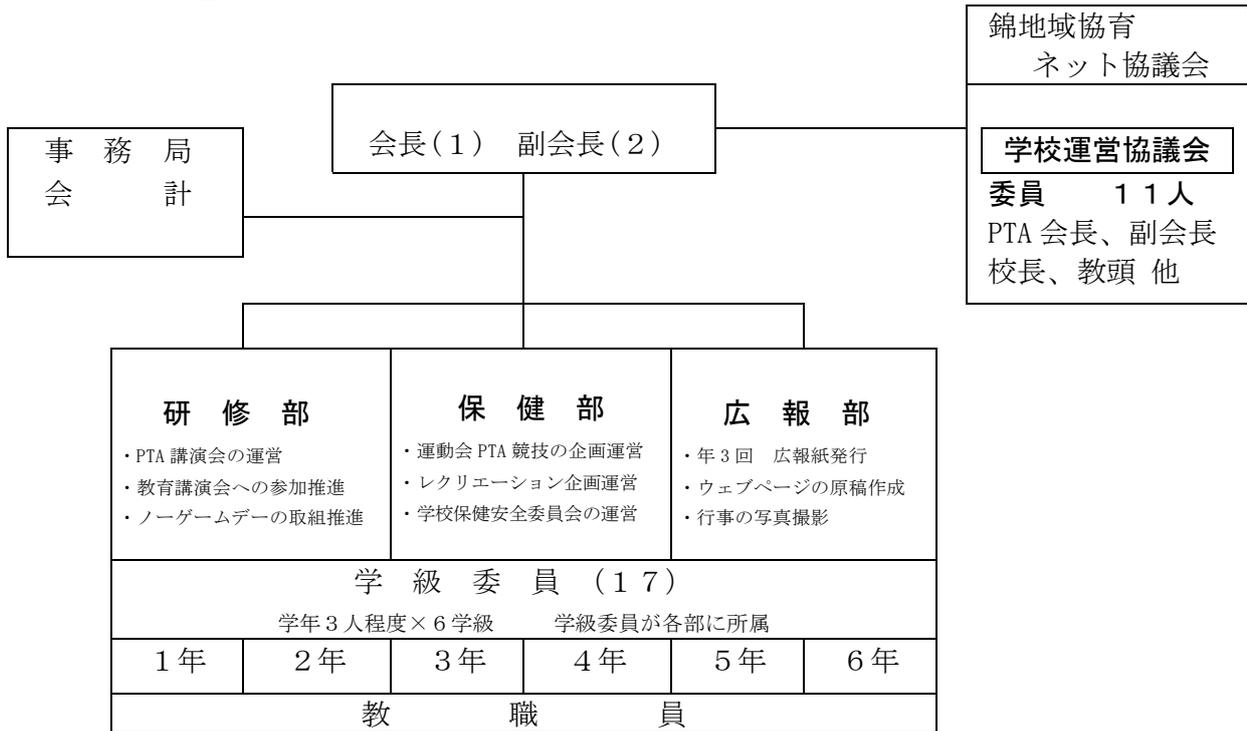
本校は、平成14年4月に広瀬小学校・広東小学校・深須小学校が統合したもので、広瀬盆地の中心を走る国道434号線沿いにあり、総合支所、広瀬幹部交番、錦中央病院及び商店街等に近く、錦中学校及び県立岩国高等学校広瀬分校とも近接しており、便利のよいところに位置している。児童の通学方法は、広瀬地区が徒歩、広東・深須地区はスクールバスとなっている。

現在、錦川と木谷川を堰き止める平瀬ダムの建設により、関係道路網が整備され、本体工事の準備が進んでいる。

□ 児 童 数(人) (各年度の5月1日現在)

年 度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
地 区	広瀬	68	61	62	56	53	55	55	58	57	63	61
	広東	22	21	23	15	18	13	12	9	5	7	6
	深須	6	2	3	3	2	2	1	2	1	1	1
合 計	96	84	88	74	73	70	68	69	63	71	68	

2 P T Aの組織図



3 研究テーマについて

岩国市北部の農山間部にある錦町は、過疎・少子高齢化が進む中、子どもたちの生活は情報機器の発達により大きく変化した。自然に恵まれたこの地に住まいながら自然に親しむ機会や地域の人との温かいふれ合い機会などの減少は、子どもたちの心身に少なからず影響を与えているのではなかろうか。

私たちのPTAでは、子どもたちの生活習慣を見直し、地域の人と一層深くふれ合うことにより心豊かなにしきの子を育むことを目指して、学校や地域と連携して取り組みたい。

研究テーマ 「学校・地域と連携して育む 心豊かな にしきの子」

研究内容 {

- ・子どもたちの生活習慣の見直し・改善の取組
- ・地域連携を推進する取組
- ・今後の課題とPTA活動の在り方

子どもたちの生活習慣の見直し・改善の取組	地域連携を推進する取組	その他の取組
<input type="checkbox"/> ノー・ゲームデーの取組 <input type="checkbox"/> 夏休み生活点検の取組	<input type="checkbox"/> 「すくルーム」の活用 <input type="checkbox"/> 錦町小学校持久走大会・交流会の開催 <input type="checkbox"/> あいさつ運動の取組	<input type="checkbox"/> 緊急時引き渡し訓練 <input type="checkbox"/> 運動会 <input type="checkbox"/> 親子レクリエーション <input type="checkbox"/> 学校ホームページの活用
<input type="checkbox"/> ラジオ体操活動推進		

4 活動内容

(1) 子どもたちの生活習慣の見直し・改善の取組

① ノーゲームデーの取組

ア 趣旨

昨年度1月の学校保健安全委員会で、本校の視力1.0未満の子どもの占める割合は、県や市と比較すると大きく上回っていることが報告された。現代の情報機器の発達と地域の過疎化も関連して、子どもたちの活動内容に偏りや戸外での遊びの減少傾向があること、また、そのことが本校の生徒の視力低下につながっていると考え、PTAとして何ができるのかを検討した。

その結果、毎週水曜日を「ノーゲームデー」とし、子どもたちがテレビやゲーム機から離れ、活動の場を地域へ返し、保護者も子どもに向き合い家族団らんの場を設けることをねらいとして取り組んだ。

イ ポスターの募集

子どもだけでなく保護者も「ノーゲームデー」の意識付けをするため、夏休みにこの取組のポスター募集を行った。

ポスターの募集内容

- ゲームやテレビをひかえることで、自分や家族にとって、「こんな良いことがあるよ」と訴えるもの。
 - 「水曜日は、ノーゲームデー」または「ノーゲームで、わが家はみんな 読書好き」「ノーゲーム 初めて知った ぼく天才」等の自作した標語を入れる。
- ※ 家族と一緒に話し合って決めてもよい。

優 秀 作 品



2学期の始業式に先立って、ノーゲームデーポスターの優秀作品の表彰を行った。3名の最優秀作品を描いた児童に、牧中PTA会長が賞状と副賞を授与した。作品は、「夏休み作品展」や11月の「錦ふるさとまつり生涯学習作品展」で掲示し、多くの人に紹介した。

ウ ノーゲームデー・チャレンジカード

夏休みにこの取組が活かされるよう、PTA作成の「ノーゲームデー・チェックカード」



研修部による作品審査① 8/29



研修部による作品審査② 8/29



PTA会長が表彰 9/1



ポスター掲示(夏休み作品展) 9/2

を「夏休み生活習慣カレンダー」とともに配布し、規則正しい生活習慣が身に付くよう注意を喚起した。

学校と家庭が連携して取り組んだことにより、子どもたちの意識も高まり活動内容にも変化がみられたように思う。今後も継続していけるよう取組内容を検討したい。

エ アンケート調査の結果

子どもが一週間の内ゲームをやらない日数や1回にゲームをする時間は、ノーゲームデーの取組後も大きな変化は見られなかったが、家族と会話や読書、外遊びが増えたりした。まだルールを決めていない子どももあり、家庭での取組の差も浮かび上がった。

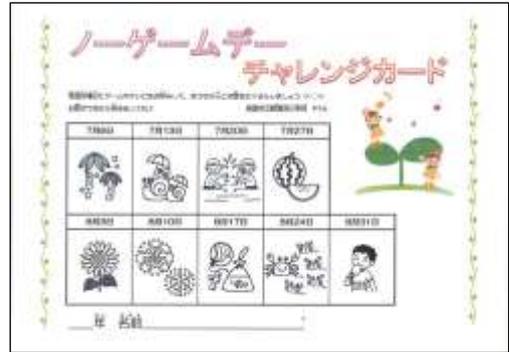
オ 今後の取組

週に1日ゲーム・テレビを控えることで、目の健康にどれだけ影響があるかは疑問であるが、ゲーム依存の予防やその悪影響について理解し、望ましい生活習慣を目ざして積極的に生活を改善することができる子どもを育てることが大切になると思う。

ゲームやテレビの弊害について、考える機会を設けたい。

② 生活点検の取組

その他、夏休みには「夏休み生活習慣カレンダー」、冬休みには「生活習慣コントロールチャレンジ」により、子どもたちに望ましい生活習慣が形成されるよう、各家庭で生活の点検を行った。



ノーゲームデー アンケート結果 錦清流小学校PTA

■対象:全児童 69名
■実施日:1回目は7月10日(回答64名)、2回目は1月26日(回答63名)

質問 1	調査日	はい	いいえ	計
あなたの家にゲーム機がありますか	7月	61	3	64
	1月	62	1	63

□ほとんどの家庭にゲーム機がある。ノーゲームデー取組後もそれは変わらない。

質問 2	調査日	毎日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日	計
あなたは週に何日くらいゲームをしますか。	7月	12	9	7	6	5	7	12	5	63
	1月	9	7	8	11	8	6	9	5	63

□ノーゲームデー取組後は、週に「毎日・6日・5日」ゲームをやっている人が少なくなった(約44%→約38%)が、大きな変化はない。
□ノーゲームデーを実践しない家庭もある。

質問 3	調査日	やらない	0~29分	30~59分	1~2時間	それ以上	計
ゲームをする日は、どのくらいの時間やりますか。	7月	5	14	21	17	6	63
	1月	5	11	23	18	6	63

□ゲームをする時間は、ノーゲームデー取組後に比べてほとんど変わらない。
2時間を超える長時間ゲームに時間を費やす(依存する?)人の数も変わらない。

質問 4	調査日	誰もやらない	自分だけする	家族だけする	自分も家族もする	計
家の人もゲームをしますか。	7月	2	11	5	45	63
	1月	3	11	2	47	63

□多くの家庭(約80%:「家族だけする・自分も家族もする」)で、子どもの以外にゲームをする家族がある。取組後もその数に大きな変化はない。

質問 5	調査日	決めている	決めていない	計
ゲームをしたりテレビを見たりするのに家でルールを決めていますか。	1月	42	21	63

□約67%の子どもが、ルールを決めているが、ルールを決めていない家庭もあり、取組の差が見られる。

質問 6	調査日	決めている	決めていない	計
ゲームをしたりテレビを見たりするのに家でルールを決めていますか。	1月	42	21	63

□約67%の子どもが、ルールを決めているが、ルールを決めていない家庭もあり、取組の差が見られる。

質問 6	ノーゲームデーに取り組んで、何か良かったことはありますか。【1月】(抜粋)
○お母さんと話す時が多くなった。	○自分の時間がいっぱい残るようになった。水曜は家族でクッキーを作るようになった。
○宿題が早く終わらせた。	○外で遊ぶことが増えたような気がする。
○おじいちゃんやおばあちゃん話す時間が長くなった。	○寝る時間が早くなった。
○読書をするようになった。	○ゲーム機を取りに行くのがめんどくさくなって回数が減った。
○お菓子作りをもっとするようになった。	○ルールを守ってゲームをすることができるようになった。
○お水・お掃除が早く終わるようになった。(ハムスターを飼うようになった)	○あまりゲームをやらなくなった。テレビを見る時間が減った。
○勉強をするのがたのしくなった。	○寝る時間が早くなった。あまりやらなくても別によくなった。

□睡眠時間や家庭学習の時間が増えたり、家族の会話やお手伝い。友だちとの外遊びなどが増えたりすると記述している人が多い。

(2) 地域連携を推進する取組

① 錦町小学校持久走大会・交流会の開催

ア P T Aの参画

岩国市との合併前から行われていた「錦町民総参加マラソン大会」が取り止めとなり、平成26年度から宇佐川小学校と合同で小学校・P T A・学校運営協議会が中心となって持久走大会・交流会を開催するようになった。

以前行われていたマラソン大会は、教育委員会錦支所が事務局で地域の実行委員会が主催して行われていた。地域の女性団体による炊き出しが行われ、小・中・高校生が参加し地域の人々が多く集まる貴重な場だった。

そのような場が「地域の方々との交流」また「地域連携で育むにしきの子」・「地域とともにある学校づくり」につながると考え、P T Aも共催して炊き出しを行っている。

イ 豚汁・わかめご飯の調理

炊き出しは、今年度で3回目となるが、これまでの課題や問題点を保護者アンケートから洗い出した。

特に、衛生面に関する問題点や運営面の共通理解に課題があり、調理では三角巾の下に調理用キャップ、配膳時にも調理用手袋の着用を徹底し、事前に役員会にて配膳経路・手順等を確認した。また、会場設営や準備計画など役員の意見を取り入れて改善をした。



わかめご飯の調理



持久走スタート



交通整理



豚汁の調理

ウ 持久走大会と交流会 (12/3 土)

当日は天気にも恵まれ、たくさんの地域の方が持久走コースに応援に出てくださいました。コースが一般道のため、「錦千守会」や「にしき安全パトロール隊」、平瀬ダム工事関係者など地域の方18人が、交通整理に立ってくださいました。子どもたちもたくさんの方に応援してもらい、全員が最後まであきらめず走ることができた。

持久走の後の交流会では、体育館でP T Aが炊き出しをしたわかめご飯と豚汁を、コースに出て応援してくださいました地域の方々や交通整理を手伝ってくださいました方、宇佐川小学校の児童と保護者など、総勢240人に昼食を提供できた。

また、全体レクリエーションでは、P T A保健部が中心となって進行した。保護者や中学生、教員がハンター役となり、子どもたちを捕まえるゲームを運動場全体で繰り広げた。汗をかきながらハンターから逃げ回る子どもたちの元気いっぱい声が、青空の下に響き渡った。

今回は役員が中心となり事前準備がしっかりでき、当日の進行もとてもスムーズだった。地域の方々にもたくさん来ていただくことができ、宇佐川小学校の保護者の方共々交流が深まった。



昼食の様子



ハンターゲーム

② 「すくルーム」の活用

ア 開設の趣旨

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みと考えている。

小学校では、この活動を一層充実させるための一つの手段として、保護者や地域の方が気ままに集まり、時には教職員と語り合えるコミュニティ・ルームを9月1日に開設した。このコミュニティ・ルームの名称を「すくルーム」と名付け、この部屋を利用していただく際には、ぜひ、子どもたちの様子を見ていただき、時には一緒に授業を受けていただくこともお勧めしている。



看板



「すくルーム」出入口

イ PTAの利用

「すくルーム」には、お茶やコーヒーを飲みながら部会の打合せや親同士の情報交換ができるよう、湯茶のセットを置いた。

PTA広報部会では、この部屋を利用して広報紙の作成を行っている。広報紙に掲載する写真の選択や記事の作成など、会員が和気あいあいと作業をしている。



「すくルーム」で広報紙作成作業 11/29

この部屋を地域の方にも使っていただき、今後も地域と学校の架け橋になり地域とともにある学校づくりを、PTAとして後押ししていきたい。



湯茶のセット



「すくルーム」の会議の様子

③ あいさつ運動の取組

ア 目的

平成26年5月から、地域の連帯感を高め、子どもたちの思いやりの心を育み、豊かな人間関係を一層深めるため、「あいさつ運動」を行っている。仕事などに支障が生じないようできる範囲で協力をするよう呼びかけている。

「あいさつ運動」は毎月第2火曜日とし、場所は山口銀行前・桜木交差点・錦中学校入口のほか自宅前などできるところでできるように呼びかけた。

イ 地域全体の運動展開

以前から、毎朝子どもたちの登校を見守ってくださる方がいる。また、放課後や土・日曜日に校区を車で巡回して見守ってくださる方がいる。

錦中学校生徒会活動や本校委員会活動でも「あいさつ運動」を行っていたが、PTAの運動は、地域も子どもも保護者もみんなで取り組む形となり、錦地域協育ネット協議会(会長：錦中学校 藤中知也 校長)で取り上げられ、この年の9月から広く錦町全体で展開されるようになった。

この活動を通して、あいさつで子どもたちの思いやりの心を育むとともに、子どもたちの元気なあいさつで、錦町が一層心の通い合う地域になればと願っている。



初めての「あいさつ運動」の日 H27. 5/12

錦地域協育ネットからのお知らせ

錦地域協育ネットは、錦中学校、錦清流小学校、宇佐川小学校のコミュニティ・スクールと、地域の諸団体をつなぐネットワーク組織です。未来の錦町を担う子どもたちを育てるため、さまざまな活動を呼びかけていきます。錦町の皆様のご理解とご協力をお願いします。

第2火曜日! あいさつしよう!

平成27年9月からスタートした「あいさつ運動」には、多くの方々のご協力をいただき、ありがとうございました。平成28年度はこの運動をさらに充実・発展させていきたいと思います。錦町の子どもたちの豊かな心を育てるために、皆様のますますのご支援をお願いいたします。

平成28年度第1回 4月 12日(火)

3月8日は本年度最後のあいさつ運動でした。「おはようございまーす!」と元気を通り過ぎた小学校6年生も、次のあいさつ運動の日には、学生服・セーラー服で歩いていることでしょうね。そしてまた、かわいらしい小学1年生が仲間に加わることでしょう。ますます元気なあいさつの声をわたしたちの町に響かせていきましょう。

(毎月第2火曜日)
あさ7時30分～7時45分

場 所 錦中学校下俣号機
錦清流小学校交差点
山口銀行前交差点

その他 通学路などどこでも自由

お問い合わせ先:
錦地域協育ネット事務局
錦中学校 教頭 池田晃太郎
TEL: 0827-72-2310

地域協育ネット自治会回覧用チラシ



山口銀行前



錦中学校入口

(3) その他の取組

① 緊急時引き渡し訓練〔11月17日(木) 16:00～〕

参観日の授業参観・教育講演会の後、緊急時の引き渡し訓練を行った。メールで連絡を受けた後、事前に引き取り者氏名を学校に提出し作成された名簿によって子どもを引き取って下校した。

万が一に備え、家庭でも子どもと災害時の行動について話し合っておきたい。

緊急メールの内容

訓練です。先ほどの地震による家屋の崩壊等で、通学路の危険が予想されますので、午後4時から、お子様の引き渡しを行います。引き渡し場所：小学校体育館。お車で越す場合は混雑が予想されます。駐車はピロティ又は運動場をご利用ください。最徐行でお願いします。

錦清流小学校長



訓練の様子

② 親子レクリエーション〔5月27日(金) 14:50～〕

親子と、保護者と教職員、子どもと先生の親睦を深めるため、PTA保健部が親子レクリエーションを企画運営した。内容は、1～3年生とその保護者はドッジビー、4～6年生とその保護者はドッジボールで、親子対抗で行った。

体育館いっぱいに響き渡る歓声と拍手。親も子どもも本気になって楽しめた。



ゲーム開始



4～6年VS大人「ドッジボール」



1～3年VS大人「ドッジビー」

③ 運動会〔9月24日(土) 9:00～〕

「あきらめず 一致団結 運動会」のスローガンのもと、PTAも一致団結し、年齢を感じさせない軽いフットワークでテント設営や会場準備、親子競技の運営、用具の準備などを頑張った。

台風のため延期されこの日になったが、天候にも恵まれすばらしい運動会になり、PTAとしても大満足な1日だった。

午前の部最後のプログラムは、錦町音頭を児童・保護者・地域の方々のみんなで踊った。運動会の前16日(金)には、「虹の会」の山本さ



親子競技の道具作り(PTA保健部)8/24

んと山田さんに錦町音頭の踊り方を指導してもらった。くり返すうち、踊りの腕は上がり、笑顔は増え「やっぱり地元の方に教えてもらって良かった。」と、参加した保護者は異口同音に話していた。



「錦町音頭」練習 9/16



全員参加の「錦町音頭」



1～3年親子競技

「東京五輪予選『ボール運びペア』」

④ 学校ホームページの活用

これまで、学校ホームページは、閲覧しても情報が少なく寂しい思いをしていた。ほとんどの家庭では、スマホ等携帯端末を所持しており、PTA活動の周知や学校での子どもたちの様子などがよく分かるよう改善を学校にお願いした。学校では、ホームページの全面リニューアルの計画があり、広報部もサイト公開について勉強会をするなど役割を明確にした上で、早期実現(9月公開)を果たすことができた。

ジャムパンを啜る
お母さん「ジャ・パーン」



4～6年親子競技

「ジャ・パーン」



5 成果と課題

(1) 成果

ア 子どもの生活習慣の改善

ノーゲームデーの取組では、ゲームをするときのルール作りが進み、読書をしたり外で遊んだりする機会や家族との会話が増えてきている。ゲーム時間やテレビ視聴時間の減少はそれほどなく、視力低下に歯止めをかけたとは言えないが、ゲームの依存に警鐘を鳴らしPTA全体で子どもの視力低下に関心をもつことができた。

イ 会員参画の広がり→学校との協働意識の高揚

PTAが、学校の教育活動に積極的にに関わり、役割を持って学校支援を行うことで、学校との協働意識が高くなった。

学校ホームページのリニューアルへの働きかけにより、早期実現を果たした。「錦町小学校持久走大会・交流会」では、PTAも計画段階で効果的な会場づくりや進行について知恵を出した。PTAの声が学校運営に活かされたことが、これまでになく強く感じられた出来事だった。

また、交流会の昼食(炊き出し)やレクリエーションの企画運営の役割を役員が担ったが、今年度は協力できる会員を広く呼びかけ、多くの会員が応じた。そして作業を進める中で会員同士の交流が深まった。行事終了後は、その達成感を味わうことができた。



調理作業の合間に休憩

ウ 学校と地域連携の橋渡し→地域で子どもを育む環境づくり

PTAとして、「にしきふるさとまつり」のラジオ体操参加などの地域の行事に、積極的に参加することで、地域の方や団体とのつながりが広がり、学校行事への参加や協力してくださる人が増えた。それにより、「錦町小学校持久走大会・交流会」などの学校行事の運営が円滑にできた。

また、地域の方と子どもたちとの交流の場を持つことができた。地域の方との交流や「あいさつ運動」の地域への広がりで、地域の方に子どもに関心をもっていただく契機となった。



わかめご飯の配布

エ 活動の発信

学校ホームページのリニューアルにより、PTA活動や学校の子どもたちの様子を広く発信することができるようになった。



運動会放送係



運動会準備係

(2) 課題

ア PTAの役割

現在、錦地区では地域協育ネットを中心として、地域総がかりで「にしきの子」を育てようという機運が高まりつつある。

家庭・地域・学校の立ち位置は変わっても共通していることは、『子どもたちの幸せのために』というキーワードだと思う。学校と地域の連携・協働を図る上で、PTAの役割(何ができるか、何をしなければならないか)を、今一度整理し直す必要がある。「つなぐ」、「ともに」を視点に活動していきたい。

イ 連携の目的

活動する中で大人の連携も深まっていった。大人の親睦を目的とした催しよりも、『子どもたちの幸せのために』活動する延長として親睦がある。その順番をはき違えると子ども不在の連携になってしまう。今年度、PTA役員が企画・運営するが、実施にあたっては全PTA会員に参加の希望を募った行事がいくつかあった。活動しながら、雑談の中で本音を語り合ったり、達成感・充足感を得たりという場面が多く見られた。今後、こうい

った流れをさらに展開することの必要性を強く感じている。

ウ 地域の一員として

錦地区も例に漏れず、過疎化の波が静かに寄せてきている。再来年度は現状では複式学級ができる見通しである。住みやすい育てやすい町をつくり、子どもたちが誇れるふるさとにするためにも先を見越したPTA活動を進め、魅力ある地域づくりの一助となるために何ができるか、何をしなければならないかという視点で今後の活動を考えていきたい。

